

米CPI、大幅利上げを助長する高水準を記録

ポイント① 米CPI、約40年半ぶりの高水準

7月13日に発表された6月の米CPI（消費者物価指数）は前年同月比で9.1%の上昇と、事前の市場予想を上回り、第二次石油危機下であった1981年11月以来となる、約40年半ぶりの高水準を記録しました。また前月比でも1.3%の上昇と、5月の同1.0%の上昇を上回ったほか、変動の大きいエネルギーと食品を除くコアCPIにおいても、前年同月比で5.9%の上昇となり、FRB（米連邦準備制度理事会）が物価安定の目標に掲げる2%の水準を15か月連続で大きく上回りました。

ポイント② インフレ鎮静化には時間を要す見込み

項目別では、前年同月比で59.9%の上昇となったガソリン価格を筆頭に、食品、帰属家賃など、ほぼ全ての項目で価格の上昇が続いています。ただ、11月に中間選挙を控える米バイデン大統領は、本統計を「受け入れ難いほど高水準」とした一方で、「足元のガソリン価格の下落を考慮すると（本統計は）古い数字である」ということを強調しました。事実、WTI原油先物価格は、世界的に景気後退懸念が広がったことで、6月上旬を境に下落基調となっていますが、堅調な雇用環境を背景に、帰属家賃などの項目では依然として上昇が続くそうなので、インフレ鎮静化には時間を要すると考えています。

ポイント③ 市場では大幅利上げが既定路線

市場ではCPIの上昇を受けて、今月27日のFOMC（米連邦公開市場委員会）にて、前回に続き0.75%の利上げが行なわれるとの見方が強まったほか、一部では利上げ幅を1.00%に拡大するとの予想もあり、米10年債利回りは大幅利上げによる景気後退を懸念し、前日比で小幅に低下しました。

米CPIの推移



期間：2004年1月～2022年6月、月次
 (注) コアCPIはエネルギー、食品除く
 (出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

WTI原油先物価格と米10年債利回りの推移



期間：2020年1月3日～2022年7月13日、週次
 (出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

**重要
イベント**

| | |
|-------|----------------------|
| 7月15日 | 米小売売上高、米鉱工業生産指数 (6月) |
| 7月27日 | 米金融政策発表 |